



一人一人の「できた」を自信につなげる

校長 瀧嶋 克己



オリンピック教育の一環で、なわとび世界チャンピオンの生山ヒジキさんを講師にお招きしました。体育館の半分をダイナミックに使い、音楽に合わせた数々の技は、見ている子供たちを魅了していきました。軽々と三重跳びや四重跳びを披露するなど、まさに「宙を舞う」という言葉がぴったりの演技でした。その後、各学年1時間ほど指導をしていただきました。今週からなわとび月間に入っています。「回数が増えた」「新しい技ができた」など家に帰ってからも話が出るかと思えます。励ましをお願いします。

さて、今年度本校では、特別支援教室を開設しました。昨年度、子供たちから名前を募集し本校では「ひまわり」と名付けました。専門の巡回指導教員が拠点校（旭丘小学校）から出向き、保護者と学級担任と相談の上、子供の状況に応じて計画を立て指導を実施していきます。複数の子供たちが一緒に学習する小集団（グループ）指導と教師1名と子供1～2名の個別学習を組み合わせて行います。毎週火曜日に2～

4時間子供の状況に合わせて学習を行います。

友達と一緒に勉強したり、遊んだりすることが苦手でトラブルになってしまう。苦手なことや不得意なことによって、学校生活にうまく参加できないなどの子供に対して一人一人の実態に合った学習や具体的な対応の仕方を身に付ける学習を行います。

学習の課題を一つ一つ丁寧に設定することで「できた」が積み重なり「自信」につながっています。「ひまわり」に入室するためには、門園啓子特別支援教育コーディネーターが窓口となります。提出書類を整えて練馬区の利用検討委員会に申請し「承認」が得られれば入室となります。各学校で入室希望者が増え審査に時間がかかっています。早めにご相談ください。

また、12月より小竹小学校地域未来塾を今年度試験的・試行的に実施いたします。小竹小学校地域未来塾は、「学校・地域連携事業」を活用して行います。地域未来塾のねらいは、学習に不安のある子供に対しての補習です。放課後の時間を活用し、本校の算数教室で行います。指導者は、地域人材や大学生です。指導内容は、東京ベーシックドリルや学校が準備した教材です。学習時間は、1時間を考えています。今年度は、試験的・試行的であるため学年をしばらく3・4年生としました。11月に募集し、人数も15名程度とさせていただきます。指導者の確保や曜日の固定など課題がありますが、今年度10回程度実施を予定しています。